

みのり太鼓結成から25年！！



みのり太鼓メンバー

やまもと きみこ
山本 貴美子さん

「11月の公演は、他県の団体も併せて6団体出演します。個性豊かな和太鼓の響きをお楽しみください！」と話す山本さん。

みの〜れと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ

No.124

黄色く色づいた柿の実、山茶花の垣根に咲き始まった優しい香りの花に誘われて小さな秋を見つけに散歩に出ると木の实をみつけたり、小さな草花に出逢うかもしれないよ。秋の夜長に読書をしたり、音楽に耳を傾けてみるのもいいですね。今回は、みのり太鼓のメンバーで小美玉市西郷地区に住まいの山本貴美子さん取材します。

多くの人の支えで 今がある。

山本さんにみのり太鼓との出会いを聞いてみました。「25年前の7月に引越してきました。その年の秋頃かな？旧美野里町で町おこしで国から補助をもらえた時期があり、芸術文化に目を向けて和太鼓をやるうということになったそうです。1993年3月にみのり太鼓が発足して団員の募集があったので、私自身は内心やりたかったのですが、小学生だった子どもをまず偵察として入団させて、その後すぐに私も入りました。今の団員の中で初期からいるのは今、代表をしている篠原孝司さんと私だけです。当時、今は、亡くなられたのですがイトウ製菓の前会長が東京から『東京太鼓』さんと呼んで、盆太鼓(曲に合わせて踊りながら太鼓をたたく味わいのある太鼓)を教えてもらいました。また、みのり太鼓の初代代表の小村和博さんが父母会を立ち上げて和太鼓を購

入するためにフリーマーケットをしたり、右も左も分らないのでご夫婦で色々なところに研修に行ったりして土台を創ってくれました。とても大変だったと思います」とみのり太鼓誕生の話をしてくれました。また、みのり太鼓の響きって細胞に働きかけて元気になる気がします。篠笛は小さいので簡単のように思われるかも知れませんが、最初は酸欠になりました。篠に穴が開いているだけなので音が出るまでが大変なんです。それぞれ吹く人によって音が違います。篠笛は彩の一つですね。また、小学生から大人になるまでずっと続けている子がいるでしょう。親戚でもないし、子どもでもない。その中間くらいにあって、成長の過程を見ているのがすごく楽しいです」と山本さん。

ある。なので、頑張らないといけな... と思うています。出来る範囲の中で続けて、最終的には何かの形で関わっていきたい場所...」とみのり太鼓への思いを話してくれました。

11月26日(日)にみのりで行われる『えん〜ひとつの太鼓から〜Ver.4和太鼓コンサート』の公演は、愛知県の和太鼓響々ZEROSSさんが始めたもので、我々みのり太鼓も昨年、神奈川県で行われた公演に参加させて頂きました。今まで県外で公演を行っていたのですが、今回はみのり15周年の記念公演として11月に開催することになりました。6団体参加するのですが、この中にはプロとして活躍している方もいます。このような公演は茨城県でも初めてだと思っんですね。それぞれ個性豊かな団体の公演なので、ぜひ、聴きに来てもらいたいと思います」とこの公演の魅力を教えてくださいました。素晴らしい和太鼓の音を聴きに